

ひゃっこうしん
④6 百庚申

60日、60年に一度巡って来る庚申（干支の「かのえさる」）の日の夜は、人が寝ている間に爪の間から虫が這い出て、天の神様にその人間の悪い行いを言いつけ寿命を縮めると言われていました。そこで、虫が抜け出さないように夜を明かした（庚申講）というものです。



庚の百庚申は、文久年間（1860年代）庚の高山弥平太が、事業がうまくいったお礼に建てたものです。庚申塔が百体もある百庚申は長野県下でも大変めずらしいそうです。

問合せ先：木島平村教育委員会

TEL 0269-82-2350